

Title	Essays on the Depressed Metabolism in Japan
Author(s)	田中, 孝憲
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/49350
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	田中孝憲
博士の専攻分野の名称	博士（経済学）
学位記番号	第 22359 号
学位授与年月日	平成20年4月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 経済学研究科経済学専攻
学位論文名	Essays on the Depressed Metabolism in Japan (企業の自然淘汰に関する経済分析)
論文審査委員	(主査) 教授 小川 一夫 (副査) 教授 本多 佑三 准教授 福田 祐一

業の個票データに基づいて実証的に検討を加えた研究である。非効率的な企業への貸出が低価格戦略を可能にし、雇用調整を遅らせ産業内の雇用の再配分を阻害するという知見や財務状況が悪化したメインバンクは企業への役員派遣を減少させ、それを大株主が代替するという新たな実証結果が得られている。ガバナンスによる企業収益への影響等、未解決の問題も残されているものの、博士（経済学）を授与するには十分な業績であると判断する。

論文内容の要旨

本論文は、1990年代におけるわが国の長期低迷が銀行行動に起因しているという議論を3つの視点から企業の個票データに基づいて実証的に検討を加えた研究である。3つの視点とは、銀行貸出と非効率企業の価格政策、非効率企業による雇用調整、メインバンクと大株主による役員派遣を通じたガバナンスである。

第1章では、本研究の目的と1990年代以降のわが国の長期低迷に関する研究の中で本研究の位置づけが明らかにされる。

第2章は、企業のプライス・コスト・マージンで測られた価格政策が、銀行からの貸出によってどのような影響を受けるのか、実証的な検討を加えている。銀行から長期貸し出しを受けた企業業績の悪い企業ほど、プライス・コスト・マージンを下げる傾向にあることが見いだされている。このことは、業績の悪化した企業への銀行からの貸出が、企業の低価格政策をサポートすることにより、新たな企業の参入が阻止されることを意味する。

第3章は、非効率的で本来ならば市場から退出すべき企業（ゾンビ企業）の雇用調整に関する実証分析が行われている。まず、既存の定義に基づくゾンビ企業には一時的に業績が悪化している企業も含まれている可能性があることから、前年に比して配当を増加させた企業、社債を発行できる企業そして高自己資本比率を持つ企業を除外してゾンビ企業が再定義される。ゾンビ企業を精査した上で、ゾンビ企業による雇用の割合が産業内における労働の再配分に対してマイナスの影響を及ぼすこと、動学的労働需要関数の計測によりゾンビ企業ほど雇用調整が遅いことが見いだされている。

第4章では、銀行と大株主によるガバナンス行動が分析されている。役員派遣という視点からガバナンス行動をとらえた上で、銀行と大株主による役員派遣がどのような関係にあるのか、分析が進められている。バランスシートが毀損した銀行は、財務状況が悪化した企業に対してさえも役員派遣を減少させ、銀行に代わって大株主が役員を派遣するという代替的な行動が明らかにされる。

第5章では、本論文で得られた結果が要約され、今後の研究課題が検討されている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、1990年代におけるわが国の長期低迷と銀行行動に関する議論を、銀行貸出と非効率企業の価格政策、非効率企業による雇用調整、メインバンクと大株主による役員派遣を通じたガバナンス行動という3つの視点から企